

# 米づくり情報 (NO. 10)

令和3年8月17日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

## 1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
8月	1	27.8	28.5	32.5	33.6	24.2	25.1	34.7	48.5	34.9	39.6
	2	27.8	27.3	32.5	31.6	24.2	23.0	38.7	94.5	33.4	26.3
	3	27.5	23.8	32.2	26.6	24.1	22.1	44.0	679.5	30.8	3.5
	4	27.1	-	31.7	-	23.7	-	46.2	-	28.9	-
	5	26.6	-	31.2	-	23.1	-	46.9	-	28.0	-
	6	26.0	-	30.6	-	22.5	-	55.9	-	32.6	-

【8月1半旬～3半旬の気象概況】

- 1) 平均気温は、1半旬は平年より0.7℃高かったが、2～3半旬では平年より0.5～3.8℃低く推移している。
- 2) 日照時間は、1～2半旬では平年の96%であったが、3半旬では平年の11%と極めて少なかった。
- 3) 降水量は、平年の701%となっている。特に8月11日から14日にかけて、約680mmの豪雨に見舞われた。

## 2 生育状況 (8月17日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2 移植 東山代町脇野	本年値	出穂期 8月6日				・平年より約1日遅い出穂
	平年値	出穂期 8月5日				
	平年比	+1日				
ヒノヒカリ 6/20 移植 松浦町桃川	本年値	86.8	454	13.8	35.4	・草丈は、平年並み ・茎数は、平年よりやや多い ・主稈出葉数は、平年並み ・葉色は平年よりやや濃い
	平年値	85.8	413	14.0	33.9	
	平年比	101	110	-0.2	+1.5	
たんぼの夢 6/15 移植 松浦町桃川	本年値	73.8	419	14.0	38.2	・草丈は、平年並み ・茎数は、平年よりやや少ない ・主稈出葉数は、平年よりやや多い ・葉色は、平年よりやや薄い
	平年値	75.6	447	13.3	39.3	
	平年比	104	94	+0.7	-1.1	

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

※幼穂長は、ヒノヒカリ 148mm、たんぼの夢 143mm。

### 3 今後の管理

#### 1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・乳熟期～糊熟期を迎えている。
- ・収穫 1 週間前までの間断灌水により子実の充実確保に努める。

#### 2) 普通期水稻「夢しずく」

##### 【6月上旬移植】

- ・乳熟期を迎えている。
- ・カメムシの防除を徹底するとともに、収穫 1 週間前までの間断灌水により子実の充実確保に努める。
- ・防除の際は、天気予報を参考に、防除直後に降雨にあわないよう留意する。

##### 【6月中旬移植】

- ・出穂期～穂揃い期を迎えている。
- ・穂孕み期から穂揃い期にかけては、イネの用水要求度が最も高い時期であるため、水が切れることがないように湛水管理を徹底する。ただし、大雨が続く場合は、水尻を低く保つ。
- ・この時期は強風による蒸散の影響を最も受けやすいため、台風の接近等が予想された場合には可能な限り深水とし、強風による葉先の裂傷や剝擦れなどの被害を緩和するよう努める。

#### 3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・まもなく出穂期を迎える。
- ・最も要水量が大きい時期であるため、出穂 10 日後までは湛水状態を保つ。

《参考》出穂期の平年値

品種	移植日	出穂期	幼穂形成期（1 mm～15 mm） 穂肥施用時期目安
夢しずく	5月28日	8月5日	7月10日～18日
ヒノヒカリ	6月20日	8月27日	8月1日～9日
たんぼの夢	6月19日	8月30日	8月4日～12日

#### 4) 共通

##### ○主な病害虫の防除適期

病害虫名	稲のステージ 出穂前後日数	日数								
		-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20	
紋枯病	並発生の場合	←→								
	多発生の場合	←→				←→				
穂いもち	並発生の場合			←→						
	多発生の場合			←→		←→				
カメムシ類	並発生の場合							←→		
	多発生の場合					←→		←→		

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期

## ①いもち病

- ・長期間の曇天・低温により、進展型病斑の急激な増加が見られている。発生が多い（上位3葉に病斑が確認される）圃場では、天気予報を見ながら直ちに穂孕み期の防除を行うとともに、穂揃い期にも防除を実施する。



8/17に確認されたいもち病の進展型病斑

## ②ウンカ類

- ・トビイロウンカの飛来が確認されており（p4トラップ捕獲状況の通り）、この飛来波の今後の発生予測はp5のとおりである（発生予測図は8月16日更新第4版）。気温が平年値よりも低く推移していることから、前回の発生予測図よりも防除適期が1日遅くなっている。
- ・管内のウンカ類の推移は、7月下旬頃セジロウンカの頭数が増加したが、防除によって頭数を少なく抑えられている。また、トビイロウンカについては、8/17の払い落とし調査の結果、東山代で長翅型成虫1頭/20株、松浦で長翅型成虫1頭/20株が確認されている。このことから、圃場によっては、7/9飛来波のパターン図（8月16日更新第4版）から更に1～2日ほど遅れた発生状況となっている可能性がある。引き続き、圃場の発生状況に注意しながら防除を実施する。

### 【普及センター、ウンカ類調査結果（20株はらい落とし）】

（調査日：8/17）

品種	地域	移植日	トビイロウンカ		セジロウンカ		ヒメトビウンカ	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
夢しずく	東山代	6/2	1	0	2	0	1	0
ヒノヒカリ	松浦	6/20	0	0	2	0	0	2
たんぼの夢	松浦	6/15	1	0	2	11	0	2

※上記圃場は全てブーンゼクテラ箱粒剤を使用

※トビイロウンカの成虫はいずれも長翅型



トビイロウンカ各世代の発生予測（2021年8月16日作成）

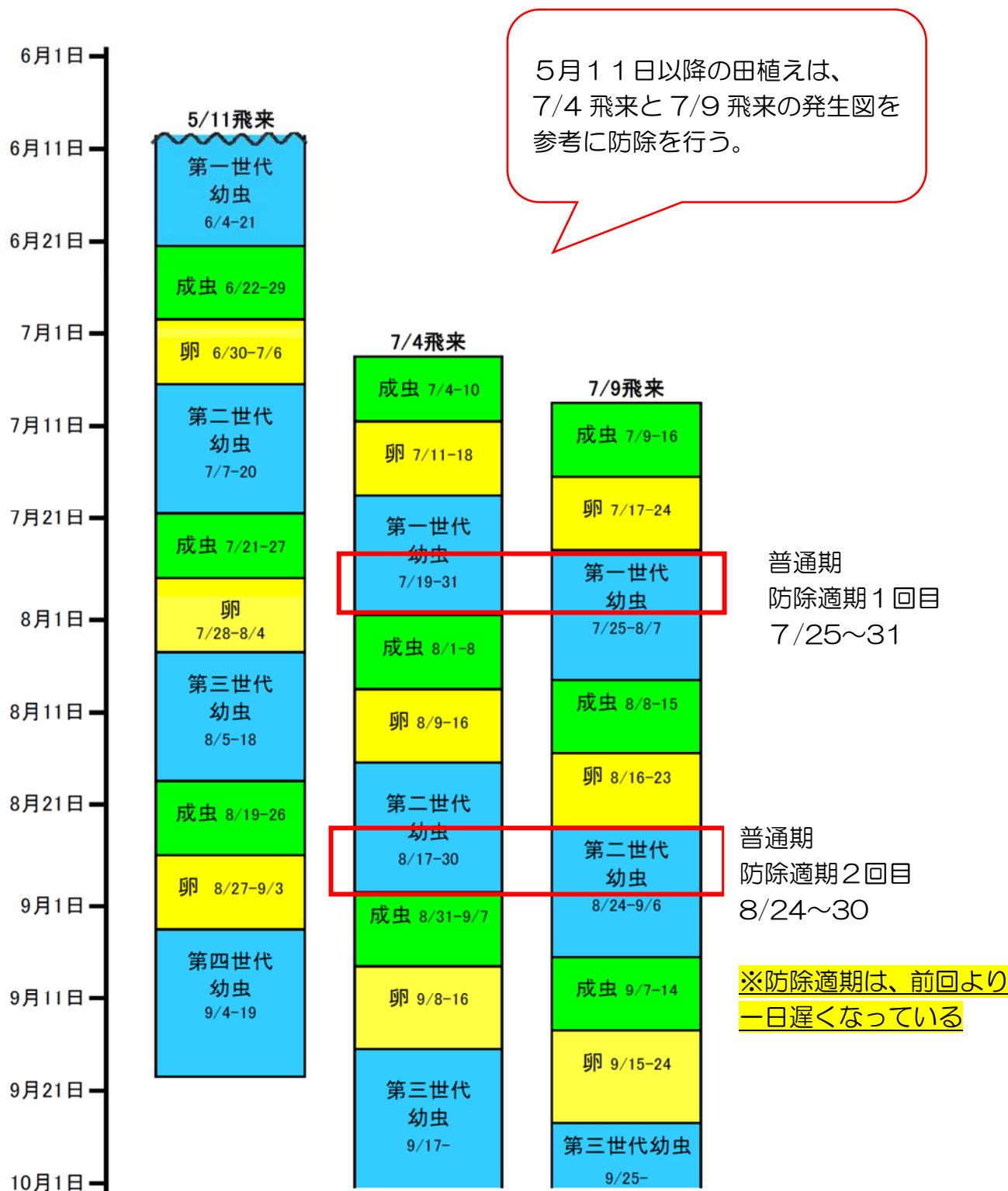


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第4版、2021年8月16日作成）

1. 5月11日頃、7月3~4日頃（図では7月4日）、7月8~12日頃（図では7月9日）の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度（第3版では7月26日以降は平年値、第4版では8月16日以降は平年値）を基に作成した。その結果、第4版は第3版に比べ各飛来虫のその後の発生時期は、0~1日遅くなった。
2. 田植え時期、品種、地域およびこれまでの防除の違い等によって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

③コブノメイガの発生予測（2021年8月16日作成）

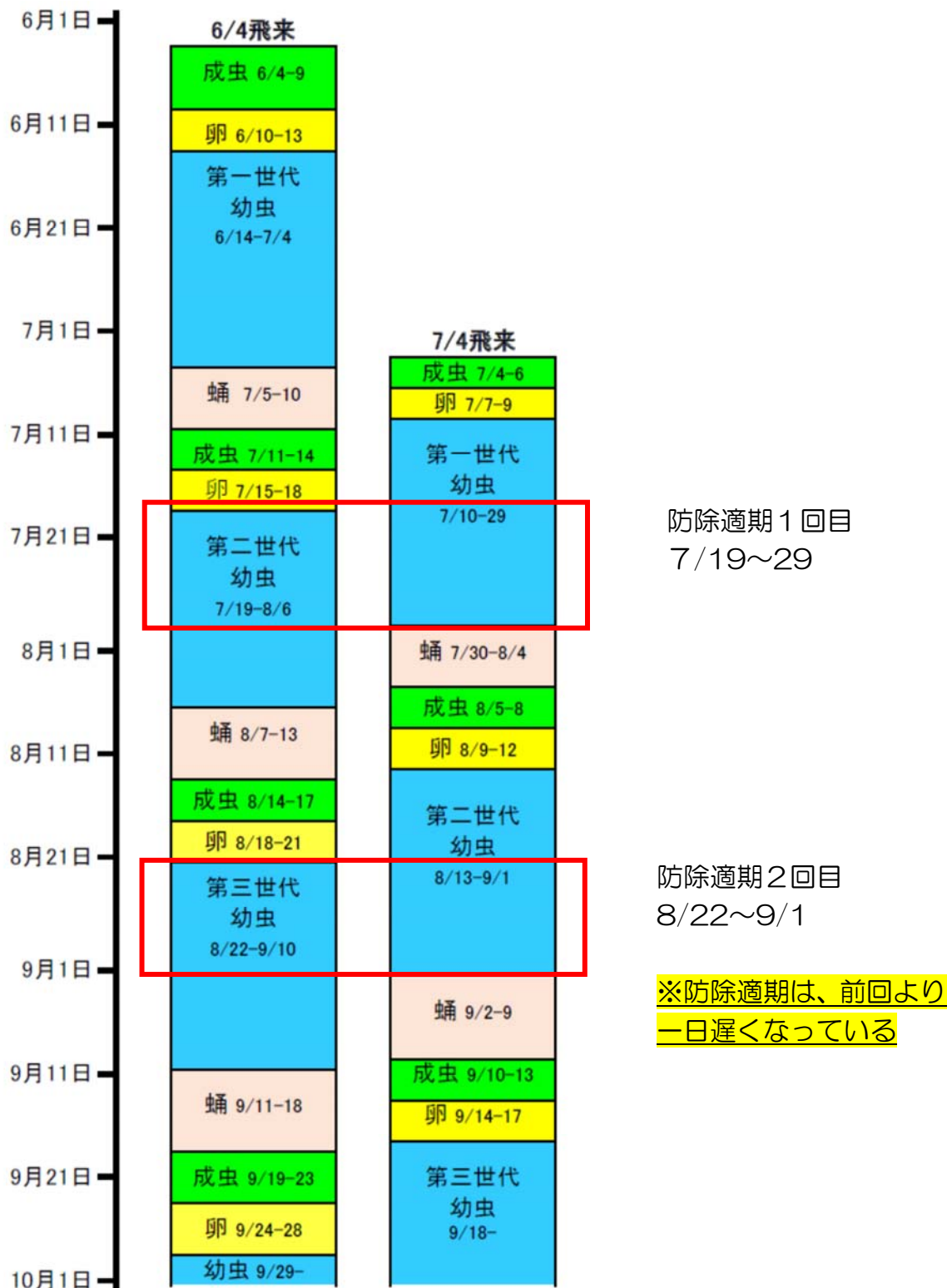


図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第3版、2021年8月16日作成）

1. 6月3~4日頃(図では6月4日)、7月3~4日頃(図では7月4日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(第2版では7月26日以降は平年値、第3版では8月16日以降は平年値)を基に作成した。その結果、第3版は第2版に比べ、各飛来虫のその後の予測発生時期は、0~1日遅くなった。

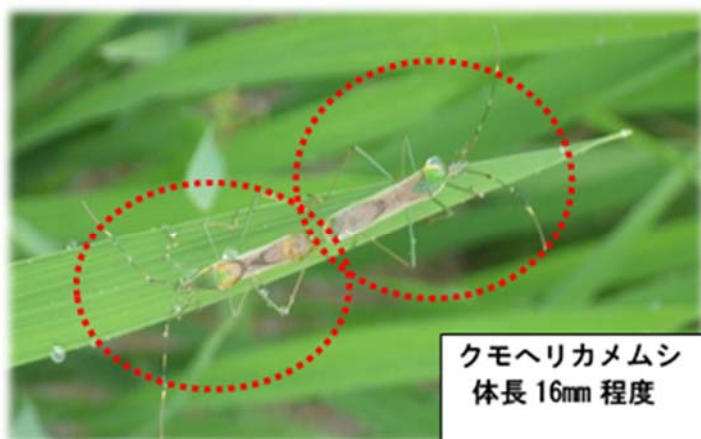
2. 田植え時期、品種、地域およびこれまでの防除の違い等によって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。

3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

#### ④カメムシ類

- 耕種的防除として、出穂 10 日前までには必ず畦畔の草刈りを終える。ノビエ等の大型雑草が圃場内に発生している場合は、速やかに除去しカメムシのの生息場所を無くす。出穂後に行うとカメムシ類が圃場に侵入し、被害を助長する。
- 薬剤防除としては、乳熟期（出揃い期の約 10 日後）の防除を徹底して、斑点米の被害防止を図る。発生が多い圃場では穂揃い期（出穂期の約 5 日頃）と乳熟期の 2 回防除を実施する。

★多発生の目安 ⇒ 20 回のすくいとり調査でカメムシが 5 頭以上の場合



#### ⑤紋枯病・稲こうじ病

- 紋枯病および稲こうじ病については、米づくり情報 No.9 を参照。

# 令和3年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業改良普及センター

